

平成28年6月3日（金）

第13回 Cancer Board

1. 製品説明

肉腫、乳癌における海外第3相試験やHER2陽性乳癌におけるハーセプチン・パージェタとの併用第1相試験について、また、好中球減少の詳細な推移とマネジメント方法について、紹介された。

2. ミニレクチャー

「原発不明癌の病理学的側面」 三重大学臨床病理学講座 広川医師

原発不明癌の診断に関連する因子には、診断技術や検索の徹底度、病理医の熟練度などがあり、診断の方法としては、病理診断、免疫組織学的アプローチ（各種マーカー）、電子顕微鏡、分子生物学的アプローチ（遺伝子検査）などがある。

NCCNのガイドラインが紹介され、その中で、多数の免疫染色は答えを見つけにくくするとされ、また、ガイドラインどおり検査しても答えが出ない場合が多くあり、病理医にとっても大変難しい癌である。

3. 地域がん登録の入力状況について

4. 症例検討

消化器・肝臓内科、光山医師より、60代男性の直腸癌と胃体部後壁腫瘍を併発した症例が提示された。本症例は、内視鏡による直腸病変の病理と、胃体部病変の病理がともに高分化腺癌であったため、まず、大腸癌胃壁内転移が疑われたが、術後のサイトケラチンの染色結果より、大腸癌肝転移と胃粘液癌が併発していることが明らかとなった。

5. その他

・次回開催予定日：平成28年7月8日（金）15時より

今回は、田中副院長によるミニレクチャーと小川看護師からの症例検討を予定しています。